

(準備研究)

長野県における緘黙の当事者・保護者・支援者ネットワークの構築

高木 潤野*

Junya TAKAGI

研究実績の概要

本研究の短期的な目的として、計画においては以下の3点を挙げた。1) 長野県における緘黙当事者・保護者・支援者のネットワークの構築、2) 緘黙の支援に関するエビデンスの蓄積、3) 上田市の小中学校教員・保育士を対象とした緘黙の理解啓発。2012年度の研究では、1)、2)、及び3)のいずれにおいても期待した成果を達成することができた。以下では具体的にその成果を述べる。

まず「1) 長野県における緘黙当事者・保護者・支援者のネットワークの構築」について述べる。障害のある子どもや成人を対象とした心理学的側面からの研究においては、実験的研究や臨床的な実践に先立ち、基礎的な信頼関係の構築が重要となる。一人ひとりの当事者や保護者と会い、関係を深めてゆく中で、様々な調査に協力してもらえ信頼関係が構築されてゆく。このような点から、短期的にめざましい成果をあげることはできないが、まずは今後の研究につながる基礎としてネットワークの構築を目指した。具体的な数値として就学前から成人期まで各ライフステージ5名程度の当事者及び保護者とのつながりをつくることを目標としたが、相談事例も含め、幼児期～学齢期の幼児・児童・生徒で計30名程度、成人期で5名程度の当事者とのつながりを構築することができた。特に幼児期～学齢期に関しては、2013年度も継続的に調査に協力してもらえ事例が18件集まったことの結果は特筆すべきである。現在はこのネットワークを強化するために、保護者を中

心とした「親の会」立ち上げに向けた準備を行っている。また支援者のネットワークとして、研究者を中心とした団体である「緘黙研究会(仮称)」の立ち上げ準備が進行中である。「緘黙研究会(仮称)」は緘黙研究に関心を寄せる全国の研究者や臨床家の集まりを目指しており、今後は会を正式発足させ、年次大会や論文集の発行を計画してゆく。

「2) 緘黙の支援に関するエビデンスの蓄積」については、上記のネットワークを通じて集まった協力者を対象として、幼児期から学齢期にある緘黙当事者への直接的な介入プログラムを実施し、有効な緘黙支援の方法について検討を行った。具体的には、10名の緘黙幼児・児童を対象に、小集団での活動を長野大学及びその周辺で合計7回実施した。併せて、相談があった事例に対してはメール等での継続的な相談を行った。またこれらの幼児・児童・生徒については、保護者や教師等からの要請により学校・園での支援会議にも参加し、情報の共有に努めた。これらの活動の成果として、これまで限られた部分しか捉えることのできなかつた緘黙症状について、その多様性と共通性のある程度把握することができた。この成果により、緘黙を類型化して捉えることが有効であることが明らかになった。特に、緘黙状態の発現に寄与する要因の研究は海外では多く行われているが、現在の状態像に着目した類型化の可能性が示された。具体的には、家庭の内外的でのコミュニケーションの様子の違いという視点から緘黙児を捉えることができたのは大きな収穫であった。これらの成果については、2つの論文として長野大学紀要に投稿済

*社会福祉学部講師

みである。

「3) 上田市の小中学校教員・保育士を対象とした緘黙の理解啓発」については、上小圏域の保育士約500名を対象とする研修会を実施することができた。上田及びその周辺の自治体の公立の保育所に勤務する保育士全てに対して、緘黙の理解と支援に関する研修会ができたことの成果は非常に大きい。またこの研修会や介入プログラムに関して、信濃毎日新聞をはじめとするメディアで度々取り上げられたことや、雑誌「信濃教育」への論文の寄稿により、長野県内外の保育・教育関係者や医療・福祉関係者に対して緘黙の理解と支援についての啓発を行うこともできた。1)とも関係することだが、これに関わって長野県内における当研究の認知度が大幅に高まり、様々なところから緘黙事例に関しての相談が頻繁に寄せられるようになったことも成果として挙げられる。併せて、臨床や相談活動から得られた知見に基づいて緘黙啓発資料「緘黙児の理解と支援」を作成した。この資料は Blog 上に載せて誰でも利用可能な状態となっており、また支援会議の際にも補足的に用いている。

研究発表

雑誌論文

1. 高木潤野「すべての子どもたちの教育的ニーズに応えるために—インクルーシブ教育時代に求められる「商店街型」の専門性証—」信濃教育、査読の有無・無 第1514号、2013年1月、pp. 11-20
2. 臼井なずな・高木潤野「緘黙の類型化に関する研究—従来指摘されてきた2つの分類からの検討」長野大学紀要、査読の有無・無 第34巻3号、2013年3月、pp. 1-9
3. 高木潤野「緘黙の類型化に関する研究—家庭でもあまり発話のない1事例の考察をとおして—」長野大学紀要、査読の有無・無 第35巻1号、2013年7月、pp. 7-16